

平成20年度学校評価自己評価

教育目標	児童生徒一人一人の能力や特性に応じた教育を進め、家庭や社会の一員として生活できる人間を育成する。	本年度の重点目標	○わかりやすい学校経営に努める。 ・児童生徒の主体的な活動の推進及びその指導法の改善を図る。 ・地域のセンター的機能の拡充を図るとともに、保護者や関係機関との連携を深める	
項目(担当)	重点目標	具体的方策	中間評価	自己評価
総務	・広報活動の拡充 ・施設・設備等の安全管理を図る。	・学校だよりの内容に変化をもたせ魅力あるものにする。 ・安全点検を継続する。	・学校行事の変更や新しい取組に関する記事を積極的に掲載した。 ・必要度に着目し、点検項目を見直した。	・小委員会で検討し、新しい取組を学校だよりに積極的に掲載することができた。 ・必要度に注目し、安全点検の点検項目、様式を改めた。
教務	・個に応じた教育の充実と保護者との連携 ・系統的な学習内容、学習計画の検討	・「個別の指導計画」の手だてと評価の内容を通知表として伝達し、保護者との共通理解を深めることで、支援の一層の充実を図る。 ・年間指導計画モデル案に基づいた授業計画を展開・検証し、より実態に合ったものにしていく。	・今年度1学期より通知表を個別の指導計画の手だて・評価の内容を伝える様式に変え、保護者に詳しく伝えるようにした。 ・学期毎に年間指導計画の記録・反省を記入し検証を進めている。	・通知表を新しい様式に変更したことで、指導の手だてが保護者に詳しく伝えられるようになり、家庭と協力して支援の充実を図ることができた。 ・教科・領域会を中心として、今年度実施した指導計画を記録・反省に基づいて検証し、年間指導計画案を修正することで、来年度へつなげることができた。
生徒指導	・スクールバス増車に伴う運行計画の整備および安全管理 ・東海地震注意情報受信時における児童生徒の下校計画の周知と訓練	・各コースのバスダイヤを実際の運行に即して見直す。校内バス発着場所の整備を行う。 ・校外周路を整備し、午前中授業日等を使って、順次、下校訓練を実施する。	・岩倉（新設）、江南コースのバスダイヤ見直しを行い、定時運行ができるようにした。 ・学年を限定して第1回の下校訓練を実施した。予想した混乱もなくシミュレーションができた。年度内に残りの学年を対象に実施する。	・岩倉、江南コースのダイヤを見直し、年間を通して定時運行に近づけることができた。 ・第1回の下校訓練の反省を基に計画の改善を行い、残る学年に対しても下校訓練を実施した。誘導や係間の連携など、職員の役割分担の、共通理解が図れた。
進路指導	・個に応じた進路指導の充実 ・保護者との連携・協力体制の推進	・個別移行支援計画をより活用するため、地域の関係機関との連携を図る。 ・進路だよりの内容を充実させ、進路コーナーの開設による幅広い進路情報の提供に努める。	・就労支援を通して、ジョブコーチの活用及び地域の障害者就業・生活支援センターとの連携を図った。 ・進路コーナーを開設し、進路講話会、進路だより等で広報活動を行った。	・地域の障害者就業・生活支援センターに産業現場等における実習の参観を依頼。個別移行支援計画提示の際にも同行してもらい関係機関との共通理解を図ることができた。 ・進路コーナーに地域の福祉関係及び卒業生の進路先情報等を掲示し、積極的に広報活動を行った。
保健体育	・児童生徒の健康安全意識の向上	・学校歯科医、歯科衛生士との連携によるブラッシング指導の充実を図る。 ・高等部に保健委員会を設置し、生徒による学校保健の推進と活性化を図る。	・児童生徒の口腔環境の実態に対応して、歯科衛生士によるブラッシング指導の対象学年を変更して実施した。 ・保健委員会を設置し、保健目標の伝達や美化活動等について計画的に実施している。	・歯科衛生士と養護教諭が担当する学年を協議し、児童生徒の口腔環境の実態に応じた適切な指導が展開できた。 ・年間計画に沿って学校保健にかかわる活動が展開できた。また、委員長は学校保健委員会において活動状況を報告し生徒主体の学校保健を推進した。
視聴覚	・図書の実用を図り、児童生徒の図書室利用を促す。 ・視聴覚機器の有効的利用を推進する。	・児童生徒が興味を持って本に触れられるような環境作りを工夫する。 ・各教室等での視聴覚機器の利用を円滑にするために、機器の改良や更新、環境作りを推進する。	・読書スペースを確保しつつ、児童生徒が触れ易いように図書の配置を工夫した。 ・デジタルテレビの導入、整備をすすめた。 ・記録ビデオを整理して活用し易くした。	・児童生徒が興味をもって触れられる書籍を増やし、図書室の利用を高めることができた。 ・視聴覚室内の整理整頓に努めるとともに、機器の配置を見直し、利用しやすい環境作りを推進した。
研修	・職員研修を充実する。	・外部より講師を招き、幅広い情報が得られる進路に関する研修を計画する。 ・本校会場の研究会（特別支援学級担当教員等初心者研修会等）を参加型研修とし、児童生徒への効果的な支援を身近に体験できる研修を実施する。	・「自閉症」及び「進路」に関する研修会を行い幅広い情報の収集に努めた。 ・研究会に参加型授業参観を導入したことで、特別支援教育への理解を深めることができたという評価を得た。	・外部講師による研修会を実施し、関係機関の幅広い情報を得ることができた。 ・研究会を参加型授業参観で実施したことで、研修者の特別支援教育への理解を深めることができた。
情報	・情報教育の推進及び教員の技能向上 ・情報管理と情報モラルの向上 ・学校ホームページを活用した校外への情報提供の充実	・県教委整備パソコンの活用促進と県立学校校内情報通信ネットワークの利便性の向上、情報環境整備及び活用支援。校内ネットワークと共存利活用。 ・校内情報化推進のための情報管理や活用、情報モラルの向上に対する先導及び支援 ・学校ホームページの更新を増やし、積極的な情報発信に努める。	・校内ネットワーク用パソコンを更新、拡充整備した。また、夏季情報講座を実施し、延べ100名を超える参加を得た。 ・校内実施手順書の整備に向けて、各種記録媒体等の管理手続きを整備した。 ・新規のホームページ更新に向けて、準備・作成中である。	・県教委整備による電子黒板の活用に向けて、全職員を対象に活用伝達講習会を実施した。ネットワーク機器の故障や不具合に対して、速やかな対応に努めた。 ・記録媒体等の管理に続き、電子ファイルの重要度分類に向けた意見収集や分類のための方向性を持たすことができた。 ・新年度、新規更新用のホームページの完成に目途をつけた。
地域支援	・教育相談の充実を図る。 ・地域支援システムの整備を図る。	・教育相談担当者の拡充と相談研修を積み、相談業務の向上を図る。また、広報活動についても、継続的に行う。 ・各校務部と連携し、地域支援に生かせる情報の整理と、校内外での活用を図る。	・夏季休業中のたんぽぽ相談では全員体制で相談にあたり、相談業務の向上に努めた。 ・支援機関等の情報をまとめ、冊子を作成した。 相談活動や進路指導等での活用を推進する。	・地域支援部全員で夏季休業中のたんぽぽ相談を担当することで、職員の力量と相談業務の向上を図ることができた。 ・支援機関等の情報をまとめ、冊子を作成した。相談活動や進路指導等での活用を推進していきたい。
小学部	・日常生活に必要な基本的な身辺処理能力の向上を図る。 ・基礎的な学習姿勢を育てる	・連絡帳や個別懇談を中心に保護者との連携を大切にし、個の実態に応じた課題の明確化を図る。 ・職員間の情報交換を密にし、共通理解のもとに継続的な指導を行う。	・個別懇談を通して個々の課題の共通理解を図り指導計画に生かした。連絡帳を中心に日々の情報交換によって連携関係を深めている。 ・ケース会、学年会等とおして、個人目標や手立てを検討しながら支援にあたっている。	・連絡帳を中心に必要に応じて懇談を設定するなど、保護者との連携関係を深めることができ、適切な課題設定と繰り返しの支援により児童の身辺処理能力に向上が見られた。 ・定期的にケース会・学年会を実施し、共通理解を図ることができた。今後も児童の障害特性に応じた支援を継続的に行えるようさらに連携を深めていきたい。
中学部	・生活に生かせる力を育てる。	・生徒の主体性を重視し、活動に見通しが持てる学習環境を工夫する。 ・帯日生（毎朝の日常生活の指導等）や総合的な学習の時間等を通して、個別支援の充実、興味・関心の拡大を図る。	・生徒の主体性、活動への見通しの重要性を職員間で再確認した。授業では、写真等の視覚情報の活用や体験的活動を重視した取り組みをすすめている。 ・帯日生では個別課題の内容を保護者の願いをふまえて決め、日々継続して取り組んでいる。	・生活や学習場面で写真等の視覚情報や体験的活動を積極的に取り入れた。生徒にとって活動内容がより分かりやすく、見通しや学習意欲の向上につながった。 ・個別課題への取組では、毎日の継続により成果が上がっている。生活に活かせる力となるよう教師間で共通理解を深め、さらに連携した支援をしていきたい。
高等部	・自立と社会参加のための力を育てる。	・産業現場等における実習、校内実習や作業学習の充実を図る。	・作業学習の充実を図るため、来年度「清掃班」を設立することを検討している。そのための試行を2学期より進めている。	・清掃班設立について検討した。「ものづくり」を中心とした作業学習だけでなく、サービス業を視野に入れた学習が必要であることや、清掃活動は非常に実用的な事柄であるとの見解から、来年度より「清掃班」を立ち上げ実施する。